

### 第3回 うらやす市民大学運営委員会 議事要旨

- 1 開催日時 平成22年1月15日(金) 17:00~19:15
- 2 開催場所 うらやす市民大学 受講室
- 3 出席者 (委員)  
山内副委員長、宮崎委員、阪本委員、東委員、武田委員、山本委員、菊地委員(欠席3名 古在委員長、高橋委員、押尾委員)  
(事務局)  
市民大学プロジェクト 岩波、金子、一戸  
市民大学事務局サポーター 仲澤、林  
コンサルタント (財)日本開発構想研究所(長島、藤森、大橋)
- 4 議題  
平成22年度前期授業科目の進捗状況などについて  
授業科目の定員および選考方法について  
通年制(22年度後期以降)の検討について
- 5 議事の概要
  - (1) 平成22年度前期授業科目の進捗状況などについて
    - ・授業科目の調整状況について事務局から説明の後、意見交換を行った。
    - ・受講生を対象としたアンケートの追加分析について事務局より説明を行った。
    - ・各授業科目のシラバスについては、2月5日を締め切りとし、次回運営委員会で提示することとした。
  - (2) 授業科目の定員および選考方法について
    - ・定員と希望科目数について事務局より説明を行った。
    - ・定員については事務局(案)を参考に、各コーディネーターが決めることとした。
  - (3) 通年制(平成22年度後期以降)の検討について
    - ・スケジュールと履修期間、通年制提案理由及び参考事例について事務局より報告を行った。
  - (4) その他
    - ・次回日程は2月16日(火)、または18日(木)に場所はうらやす市民大学受講室で行う。時間等の詳細については、古在委員長と相談の上、後日連絡することとする。

## 6 会議経過（主な意見などの要約）

### 副委員長挨拶

- ・あけましておめでとうございます。12月で一区切りついた授業科目も多いが、継続中の授業科目もあり、非常に盛り上がった感じが新年にも続いていると思う。この雰囲気は今学期の残りとは平成22年度の前期に引き継がれるようにと願っている。

### 平成22年度前期授業科目の進捗状況などについて

#### 新規授業科目について

##### （「働く女性を対象とした科目」について）

- ・前回委員会で、事務局からイメージ案を提出することになったので、企画政策課男女共同参画担当でお世話になり、キャリアカウンセリングをしている長谷川能扶子先生にコーディネーターをお願いした。授業は、20～50代の女性をターゲットとして、「なりたい自分になるためにはどうしたらいいか」というキーワードの下に全6～7回の講義を予定している。
- ・受講対象は、女性に限るのか。  
一応、ターゲットは女性としている。
- ・男性が受講希望を出してもいいのか。  
原則、女性のみと考えている。

##### （「うらやすから経済を考える」について）

- ・前回委員会で、資料を出した西川靖志先生（日経CNBC経済解説委員長）にコーディネーターをお願いし、快諾をいただいた。西川先生は浦安在住でもある。

##### （「園芸を通じた幸せ社会づくり」について）

- ・賀来宏和先生をコーディネーターとし、社会全体に園芸の素晴らしさを伝えていくことを中心の授業科目とした。古在学長もバックアップを考えている。

##### （「地域介護予防リーダー養成」について）

- ・地域包括支援センターと市民大学事務局が支援して、「うらやすの介護ボランティアを考える」から一步踏み込んだ授業科目として調整している。7割方シラバスができている。

##### （「創業者支援」について）

- ・商工観光課からの依頼で、「創業者支援」の開講を考えている。これから起業する人、起業して間もない人を対象とする。市民大学において産業振興というイメージがある「創業者支援」を開講することについて議論いただきたい。
- ・市民大学にふさわしい授業内容にしていただければいいのではないか。
- ・協働の担い手ということを考えると、その協働のなかには、団体や企業等も入るのではないか。

- ・これまでのシラバスを見ると、内容が専門的すぎる。商工会議所等で開講するほうがいいのではないか。
- ・起業をしようとして困っている若者も多いと思うので、土曜日に開講して、新しいターゲットを作るという狙いであるなら開講を考えてはどうか。
- ・市民大学の授業科目としてではなく、「商工観光課の事業に市民大学が場所を貸す」ことで開講してはどうか。
- ・これまで商工会議所側で3年間行っており、毎年30名程の参加がある。創業支援だがNPO法人の立ち上げにも役立つのではないか。  
市民大学側では、土曜日を希望する授業科目が多いので、単なる場所貸しとしては難しいのではないか。授業内容等については、担当する商工観光課と協議した上で、後日メールにて委員に連絡をする。

#### 継続する授業科目について

##### (開講日について)

- ・新たな授業科目は、土曜日開講を希望している授業科目が多い。既存の授業科目については改めて希望を出していただき、今後の開講日調整の参考にさせていただきたい。
- ・「うらやすの街づくりを考える」は、これまで通り水曜日午後2コマ連続で5回の開講にしたい。
- ・「うらやすのブランドと観光を考える」は、土曜日に2コマ連続で開講したい。隔週でも可能。
- ・「ローカルとグローバル」については、曜日の変更が発生する予定。

##### (カリキュラムについて)

- ・現在の受講生が次の段階に進む授業科目は、いつ用意するのか。また今は前期の授業科目のみを考えているが、後期まで含めて想定した方がいいのではないか。
- ・前回の議事における、授業科目のバージョンアップ等、科目構成についての結論、方向性はどのようになったのか。
- ・バージョンアップ等の結論は曖昧なままになっている。
- ・前回、現在の授業科目をバージョンアップしていく場合に、前期と後期とを通して考え、後期に用意したらどうか、と話をしたが、とりあえず今回は前期だけの話となった。
- ・通年制の問題も議題に上がっているので、授業科目、授業内容を2年、3年先まで考えてというストーリーがいるのではないか。
- ・先のストーリーや卒業後を考えて作るのが、本来のカリキュラムのあり方だと思う。

##### (各授業科目について)

- ・受講生を対象にしたアンケートでは、同じ授業科目に対する継続希望が多い。そこで、各コーディネーターには、新入生と同時に現在の受講生がステップアップできるシラ

バスの作成をお願いしている。

- ・「同じ内容の授業ならば、次は受講をやめる」という受講者もいるだろう。アンケートでは継続希望が多いが、バージョンアップした授業内容にしていけないと出席率は落ちる。一方で、知識意欲が豊富な受講生のためには教養講座的な授業科目も必要。座学中心、教養中心の授業科目については、新しい受講生のために、定員も多く、授業内容も似たようなものであっていいと思う。
- ・現在の授業科目は「を考える」となっているが、来期は「創る」シリーズとし、考えることを第一段階、創り出すことを第二段階としてイメージする授業科目にしたらどうか。その授業科目のアウトプットとして、例えば市民の創り出した映画や市民が創り出した市民歌という様な、具体的な実践課題の取組に移るべきではないか。
- ・受講生の定着率は非常に高い。一方で、新たな入学希望者もかなりいると思う。現在の授業科目に続くバージョンアップした授業科目ばかりだと、現在の受講生が市民大学を独占している感じで不公平感が出る。最終的にはコーディネーターの判断になるが、シラバスの備考欄での受講制限に、「原則第一期受講者対応」などの注釈を付けることにより、ある程度の公平感を保ちつつ、定着率の高さも維持できるのではないか。
- ・「考える」という授業科目をやめてしまうと、新たに受講希望する人が、これまで話に聞いていたものと違う、難しそうだということになる。一方で、意欲のあるグループは、もっと勉強をしたいと思うようにもなっている。
- ・来期継続を考えている既存8授業科目について、「うらやすの情報を考える」、「うらやすの街づくりを考える」、「うらやすの地域コミュニティを考える」、「うらやすのブランドと観光を考える」は、少人数ゼミ形式で授業を進めていたので、これまでの進化形、ステップアップした形を考えている。
- ・一方で「うらやすで学ぶ歴史未来学」、「うらやすの健康づくりを考える」は教養講座的なものとして既存の内容を中心に展開する。
- ・ただ、「ライフデザインを考える」、「ローカルとグローバル」はどうなるのか、事務局ではイメージが掴めていない。
- ・座学として、例えば「ライフスタイルを考える」、「ローカルとグローバル」などは継続すべきだ。ただ、何かを考えると創りたくなる。「考える」と「創る」を並立させ、発展的、段階的というのではなく、座学と結び付きながらの演習・実習と考えたらどうか。
- ・修了生からの意見に、「仲間同士で『うらやすガーデンシティの会』を創って活動をするつもりでいる」とあった。このように「考える」から「創る」ということが現実に起きている。
- ・新たに来る人と継続する人のバランス、そこをどうコーディネートしていくのが難し

い問題だ。「創り出す」という比重を高く考えるべきではないか。

- ・「うらやすガーデンシティの会」のように具体的にすぐ実践に移るといった話も出ていたので、「考える」と「創る」をステップアップとして考えなくてもいいのではないかな。どのくらい継続希望者がいるのかを考えながら、できるだけ創る、実践するという機会を入れてシラバスを作ってほしい。
- ・授業をする側の立場からすると、どうすれば効果を上げられるか、与えられた時間をどう使うかということを考える。実習にしても一通りやってみる段階と本格的にやってみる段階では違いがある。平成 21 年度を受講生のためには、本来なら、さらに成果が上がるような授業科目を用意したい。
- ・授業科目数に制約があるようだが、1 年という期間を前期と後期で考えてカリキュラムを組めたら良い。

その他

- ・現在の受講生についても重要だが、新たな受講生を呼んでこないといけない。また、新しい人を入れるためにも、受講生は何年かしたら卒業してもらおうことを考える。現状では、卒業のシステム（期限）がないので混乱しているのでは。
- ・市民大学で勉強をした結果として何か形に残るほうがよい。
- ・市民大学はなににもないところから始まったので、各授業科目がまだ途中の過程で、目標が出しきれていない。おそらく 2 年目になれば、各授業科目の必然性や連関性が見えてくる。
- ・市民大学で受講し、何年か経ったら、ただ放り出されて、そのまま終わってしまったらもったいない。継続的に相談できる場所、もっと勉強の出来る場所があればいいと思う。
- ・市民大学の役割としては、「新しい人を迎えるということ」と、「入ってきた人を育てること」という二つがある。来年度の前期は、少し科目を加えながら今年度の内容を踏襲する。ただ、後期の開講までには、育てるというカリキュラムをどうやって少しずつ加えていくかを考えるのが、運営委員会の役割ではないか。

授業科目の定員および選考方法について

( 授業科目の定員について )

- ・「うらやすで学ぶ歴史未来学」、「うらやすの健康づくり」の定員を 40 名とし、他の授業科目の定員は 25 名を基本とする。
- ・定員 25 名と 40 名の授業科目の振り分けは、それでいいのかな。
- ・各授業科目の定員については、各コーディネーターに自分の授業科目の定員はどちらかを決めてもらうのがいい。

(選考方法について)

- ・ 前回の運営委員会で、新しい希望者が一つも受講できないということにならないようにとの意見があったが、上限を超える応募者がある場合の優先順位の提案が入っていないが。
- ・ 優先というのは、希望する授業科目に順番を付けて申し込んでもらうということか。
- ・ 選考方法、優先順位については、もう少し具体的に書くこととし、資料を送り、意見を伺うことにする。

通年制(22年度後期以降)の検討について

- ・ 事務局として年に2回の募集が準備などの面で非常に負担になっている。また、年間を通したカリキュラム作りを考えていく上でも、平成22年度後期以降について、通年制を再度ご検討いただきたい。
- ・ 募集等、履修のための事務的なスケジュールと、授業を通年でやるかどうかというのは別な話なので、それぞれ議論したほうが良い。